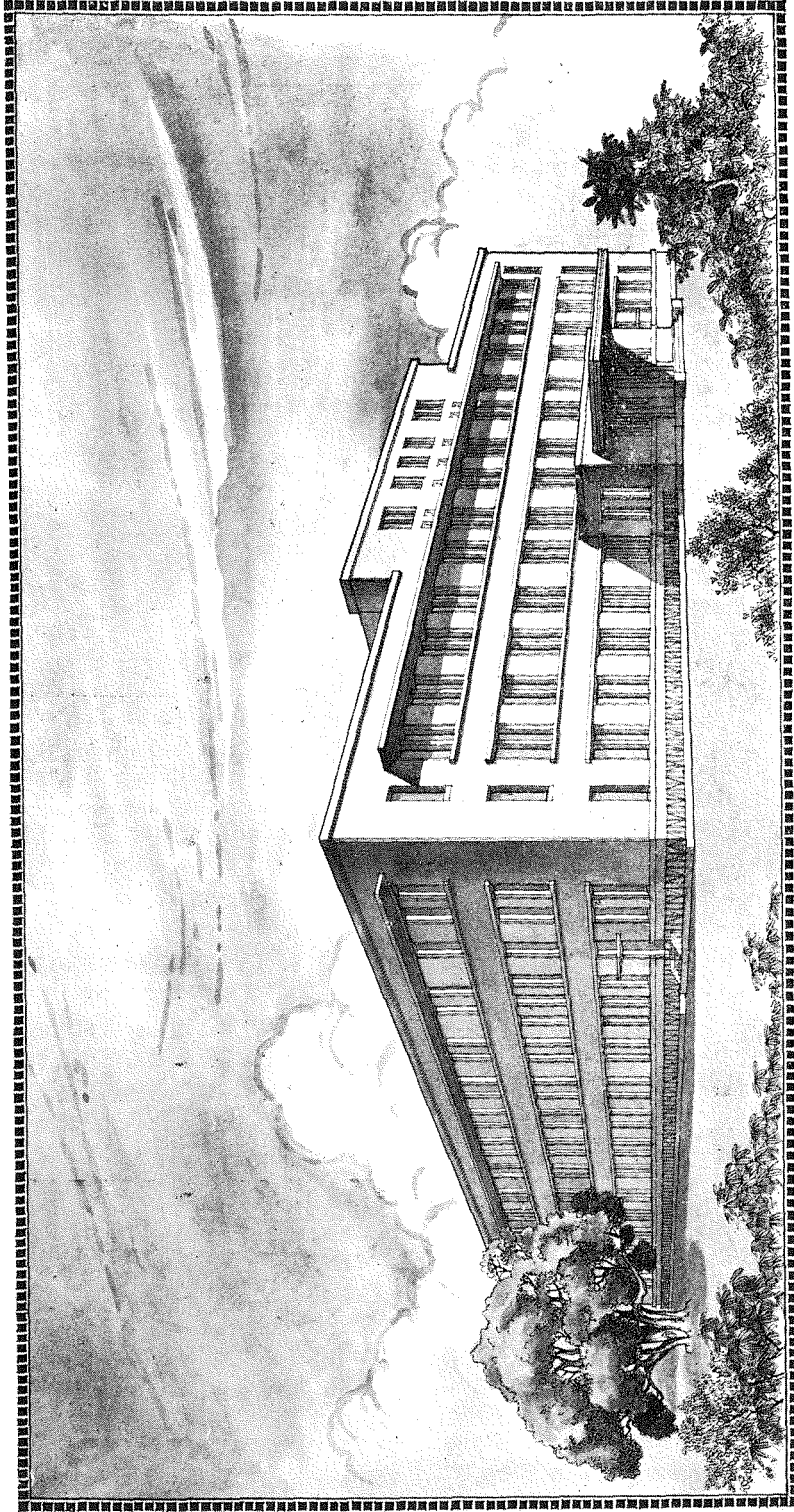


東京鐵道病院配景圖



(1) Prospective view of Imperial Government Railway Dept't Tokyo Hospital. Location...Sendagaya-Machi. Tokyo Suburb. Floor area of main wing...3,502 Tsubo. Construction...3-story reinforced concrete building. Date of completion...October 30th, 1927. Note :- The hospital is to be devoted to employees of railway dept't and their families.

最近大規模に復活したる

東京鐵道病院再築工事概要

鐵道省建築課長 寺田 勇一

所在地	東京府豊多摩郡千駄谷町九〇二番地		
工程	地鎮祭	大正十五年八月三日	
	起工	大正十五年八月十三日	
	竣工	昭和二年十月三十日	
敷地面積	4,000 坪		
建物種別及坪數	鐵筋(一部鐵筋)コンクリート造		
本館	三階建(一部地階及四階建)	延坪 3,502.551坪	
看護婦寄宿舎	木造やまとスレート葺二階建	延坪 248.966坪	
自動車庫	鐵骨(古軌條)鐵網コンクリート造平家建	延坪 16.335坪	
運轉手詰所	木造やまとスレート葺平家建	延坪 9.310坪	
特別病室	" "	72.717坪	
屍室	" "	11.761坪	
動物小舎	" "	12.169坪	
守衛詰所	" "	5.880坪	
同 上	" "	0.980坪	
供待所	" "	2.205坪	
便所	" "	1.470坪	
同 上	" "	0.980坪	

本館工事概要

坪數	地階	617.167坪
	一階	976.632坪
	二階	858.078坪
	三階	858.078坪
	四階	192.596坪
樣式	近世式	

構造 正面四階建の部分は柱及梁を鐵骨造とし他は全部鐵筋[コンクリート]造にして背部の集合手術室を本館との接續する箇所は[エキスパンジョン、ジョイント]をす。中廊下兩側階段室、其他耐震上重要な間仕切は、鐵筋[コンクリート]造とし、其他一般

の間仕切及天井は鐵骨鐵網張りす。外廻り窓、出入口建具は全部鋼鐵枠をす。

外部仕上 外部は各蛇腹及庇帶等人造石洗出しにして壁は總て淡褐色[タイル]張りし、正面出入口廻

りは日華石を以て被覆す。屋上は[クリンクタイル]敷す。

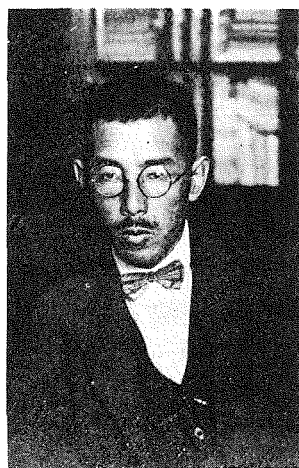
内部仕上 天井及壁は大部分漆喰塗、着色の部分は水性塗料塗、其他室の用途に應じ白色[セメントモルタル]塗[タイル]張等、白色[タイル]は文化石[タイル]を使用す。床は大部分[リノリウム]敷、其他[タイル]張[モルタル]塗及[フローリングブロック]等。

各科配置

一階、内科理學的治療科、外科、産婦人科集合手術室藥局、事務室等。

二階眼科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、齒科産科病室講堂、圖書室、外來患者用食堂、職員室等。

三階病室、1人室8、2人乃至4人室13、6人室12、8人室7、重症患者室2。計42室共



(2) 鐵道省建築課長 寺田 勇一 氏

(2) Mr. Y. Terada, architectural department manager of I. G. R. Dep't.

他處置室、婦長室、看護婦事務室、患者娛樂室、浴室等。

四階患者用洗濯室、寫眞撮影室、日光浴室等  
地階下足室、炊事場、職員食堂、蓄變電室  
水庫、倉庫、洗濯消毒室、汽罐室等。

屋 内 設 備

防火設備各階段室は防火構造をなし各階を二つに區分し廊下に2箇所防火戸を設く。各階段際に消火栓を設け長さ100尺徑1吋半の「ホース」を備ふ。院内19箇所に火災報知機を設置し、各報知機は玄関守衛室に通ず。

電氣設備各所に動力及熱用電力線を配し蓄電變電室を置き停電に備へ、電燈は晝間線、夜間線及晝夜線等夫々配線を區別す。

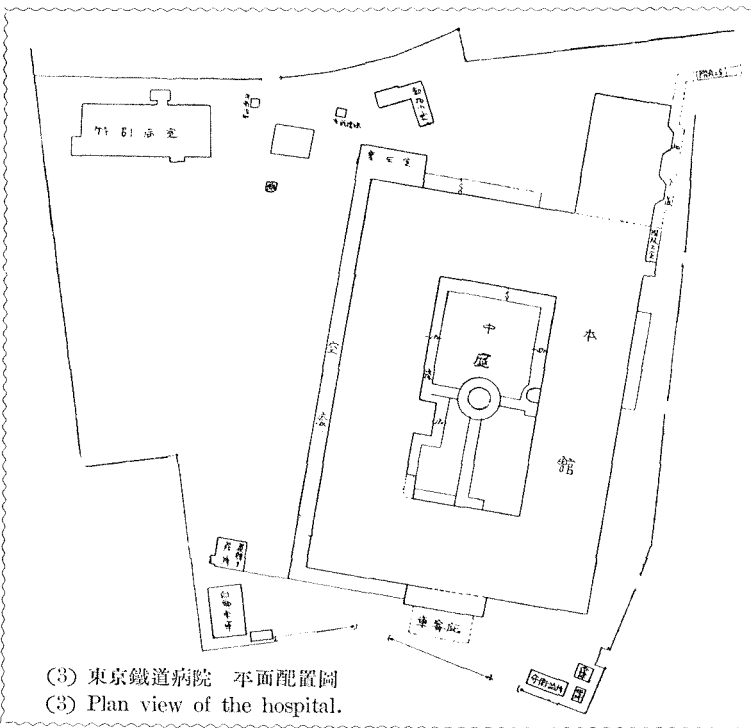
通信設備公衆電話22、鐵道電話31、院内交換電話70を配置し。院内に交換臺を設けて、公衆及鐵道電話の交換を爲し、尙ほ別に直通的の有料公衆電話一機を藥局待合室に設置す。院長各科醫長等12名に對する「ドクターコール」を院内17箇所に設く。

昇降設備階段4箇所、正面及裏階段室に昇降機を設く。昇降機は日本「エレベーター」

製造會社製、寢臺客兼用積載量2000封度昇降速度は寢臺車にて患者を運ぶ時50呎客用200呎の2種併用す。食品運搬に炊事場配膳室より上階へ「リフト」3臺を使用す、「リフト」は日本「エレベーター」製造會社製。積載200量封度昇降速度80呎をす。

煖房設備、病室は重力式温水煖房、其他は真空式蒸氣煖房をす。「ボイラー」は池田式「ボイラー」三基を用ふ。消毒殺菌、炊事及温水用蒸氣をも供給す。

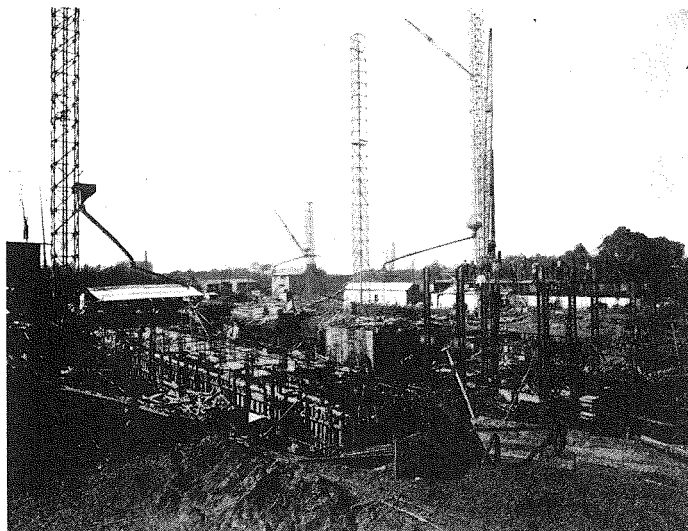
衛生設備、各便所は水洗式とし洗面器、手洗器、流し等には給水及給湯設備をなし各診察室、手術室等には右の外冷温滅菌水を供給す。給水は二階以下は東京市水道に直結し三階以上及消火栓の給水は壓力「タンク」に據り専用豫備井戸三箇所を設け斷水時に備へ平常は道路撒水自動車洗滌看護婦寄宿舍の浴用洗面用に用ふ。各階の塵芥は「ダストシュート」に據り一階及地階に集めて搬出す。污水淨化装置は西原式を採用し液化槽には「スラヂパイプ」を備へ使用中に雖も槽内の沈渣を排除するこゝを得しめ濾過槽は點滴撒水装置を二



段になし一度酸化したる污水を集め再び撒水濾過し污水の酸化を完全ならしむ。排水設備は分流式とし雨水は自然流下に依り放流し污水は一般污水と傳染病室のものを分ち「クロレター」會社製鹽素滅菌機に依り一般污水は一時間以上、傳染病室の污水は24時間以上藥液に接觸せしめて放流す。塵芥燒却爐はゴ氏式を採用し一日の燒却量百貫内外のものを設備す。

設計鐵道工務局建築課  
施工監督鐵道省東京第  
二改良事務所

請負大倉土木株式會社

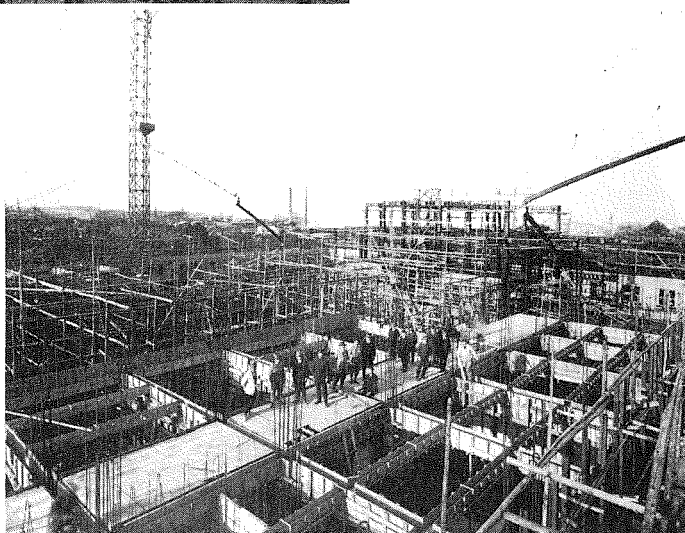


(4) 東京鐵道病院工事一階のスラブ、振板工事及び鐵骨建方

(4) Initial view of construction.

(5) 同上、二階のスラブ振板工事

(5) A picture which was taken when flooring work was started for second story.



(6) 同上外部仕上工事

(6) The last dressing.

